

第2回新しい学校づくり基本方針策定委員会 会議録

○日時 2024年11月26日(火) 16:30~17:45

○場所 須坂市防災活動センター活動室1

○出席者 委員7人、事務局4人

1 開 会

2 あいさつ

勝山教育長：

- 基本方針案は12月末に公表し、広報すざか1月号で市民に届くようになる。
- カリキュラムについては、2月の策定委員会までに検討しながら、4月以上の保護者・市民説明会で説明していく。
- 本日は、基本方針案の公表前の最後の会議になるため、色々な角度からお気づきの点をご指摘いただきたい。

3 議 事（進行：委員長）

事務局：説明

(1) 基本方針（案）について

(2) 基本方針（案）の公表等スケジュールについて

(3) 広報「新しい学校づくりだより」について

(4) 小中一貫教育カリキュラム（須坂モデル）の具体について

(5) 意見交換

委員長：

- （1）基本方針（案）について意見ををお願いします。

委員：

- 3ページの（1）義務教育学校施設分離型の図について、第一学園は小学生が、高甫小学校舎と東中校舎に分かれるので、A小学校とB小学校それぞれからD義務教育学校の第2校舎に向かう矢印はなくてよいのか。

事務局：

- 3ページの図は、一般的な義務教育学校の前期・後期課程の施設分離型の例として表現しているので、小学校は第1校舎、中学校は第2校舎としている。

委員：

- 豊丘小は現在東中に進学しているが、方針案では須坂小に統合という計画であるため、その理由を確認しておきたい。

事務局：

- 一つには学校の歴史的な背景。二つ目は、通学の際に須坂小の方が距離的に近く、川を渡らない点では防災の観点もある。三つ目は適正規模の観点から、豊丘小と須坂小の両校にメリットがある。

委員：

- 豊丘小が須坂小へということについての理由に対して、反対意見があるとすればどういう理由で受け入れ難いとなるか。

事務局：

- 豊丘小はこれまで、仁礼小と一緒に東中学校に進学していた。したがって、市民の皆さんは仁礼小と一緒にいるのではというイメージを持っているかもしれない。したがって、須坂小との統合という話を聞いたときに唐突感がある。
- また、地域のブロックは豊丘小と仁礼小で分かれているが、昔、東村という一つの村であった歴史的なこともある。
- 豊丘小の進学先が、東中学校から常盤中学校に変わることに抵抗を感じる方もいるかもしれない。

委員：

- 豊丘小が須坂小へ行くことについて、市民等へ説明する場合、クラスの数だけではなく、子どもの環境として改善していくために何が必要かという観点からの説明もきちんとしてほしい。

委員：

- 新しい学校づくりの第4号で、学力の向上を上げているいが、須坂市の学校現場や保護者の間では学力向上への期待感が高いのか。

事務局：

- 須坂市ではここ数年、学力向上と不登校対策が大きな課題となっている。
- 新しい学校づくりを進めるうえでは、学校の一番の使命である学力を全面に出していきたい。

委員：

- ここで言う学力は、いわゆる基礎学力という狭い意味だけでない学力という理解でよいのか。

事務局：

- そのような理解で結構です。

委員長：

- 基本方針案の4ページの、高甫小校舎と東中校舎に1～4年、5～9年に分けるという点について、教育委員会としての説明はいかがか。

事務局：

- 学びの観点から、特に5年生から教科担任制や学年担任制の導入を検討したい。小学校高学年の学力が、須坂市の課題になっているので、1～4年と5～9年という区分けを考えている。

委員長：

- 前回の会議では、1～4年生の校舎では、先輩に対するあこがれ、4年生が下の子を引っ張っていけるかという心配の意見があった。

事務局：

- 学習や行事などを通して交流もあるため、まったく分離された状態ではない。
- 文科省の資料などでは、子どもたちの心身の発達の低年齢化が指摘されている。その点からも、これまでの6-3制ではなく、4-5制の方が心身の発達に合っている。

事務局：

- 5年生から中学生（7～9年生）と一緒に過ごすことで、中1ギャップの軽減につながるということもある。

委員長：

- 基本方針（案）の公表等スケジュールについて意見はありますか。

委員長：

- 説明会の開催予定について、小学校はあるが、中学校が抜けているので入れていただきたい。

委員長：

- 広報「新しい学校づくりだより」について意見はありますか。

委員

- 新しい学校づくりだより4号に「学力の向上」とあるが、「学力の一層の向上に向けた新たな取り組みができる」とした方が、小中学校の先生が一緒になったりする一貫教育のよさになる。

委員長：

- 同じ4号に「中1ギャップ」とあるが、市民が理解できるように、中1ギャップの簡単な説明が必要ではないか。

委員長：

- 小中一貫教育カリキュラム須坂モデルの具体について意見はありますか。

事務局：

- 補足ですが、英語、生活・総合的学習、インクルーシブな教育については、このカリキュラム、須坂市がめざす小中一貫教育のリーフレットが固まったところで、カリキュラム開発委員会を新たに設置して、先生方にも協力いただきながら、さらに具体的なカリキュラムを作っていきたいと考えている。

委員：

- 英語学習の中で、5年生から中3まで、「英語への慣れ親しみから定着へ」として一つになっているが、中2から中3は高度化にかかるため、分けた方がよい。

委員：

- 英語教育に力を入れる目的はどこに記載されているか。それは、新しい学校づくりの何とつながっているのか。

事務局：

- 英語教育に力を入れる目的は、特色その1の下段に、「義務教育9年間を見通した英語学習を取り入れ、使える英語を身に着ける」としている。また、そのことは、須坂市がめざす子どもの姿「自分らしく未来を拓いていく子ども」の一つの要素として考えている。

委員：

- 「グローバル化の中で活かせる英語の力」といったように、どんなところに結び付いていくかという言葉を入れるとさらに良くなるのではないか。

委員：

- 特色2にある「学年担任制」は今後、須坂市ではこれを進めて行くということか。

事務局：

- 基本的にはそのように考えている。学年担任制の運用についてはこれから検討していく。

委員：

- 次期の教育大綱と議論では、今回の基本方針のキーワード等が反映されるように策定に向けて準備いただきたい。
- 方針案の方向性がマルかバツかの意見にならないように、アンケートは角度をつけた質

問で、「〇〇について実現するためにご意見ください」「現在の懸念点についてお書きください」等の聞き方をするなど、検討いただきたい。

委員長：

●本日は以上で協議を閉じます。

4 次回について

第3回 2月6日(木) 16:00~17:30 防災活動センター

5 その他

6 開 会